

令和6年8月12日～8月18日までの全国の暑さ指数(WBGT)の観測状況 及び熱中症による救急搬送人員と暑さ指数(WBGT)の関係について (令和6年度第16報)

環境省大臣官房環境保健部企画課 熱中症対策室

1. 全国の暑さ指数(WBGT)の観測状況について(注1)

8月12日～8月18日の全国11都市(注2)の平均値を過去5年間(2019～2023年)の平均値と比較すると、いずれの日も高く、8月13日から15日と17日、18日は2程度高くなりました。

総務省消防庁の発表によると、全国11都道府県(注2)における熱中症による救急搬送人員(注3)の合計は、2,735人でした(図1)。

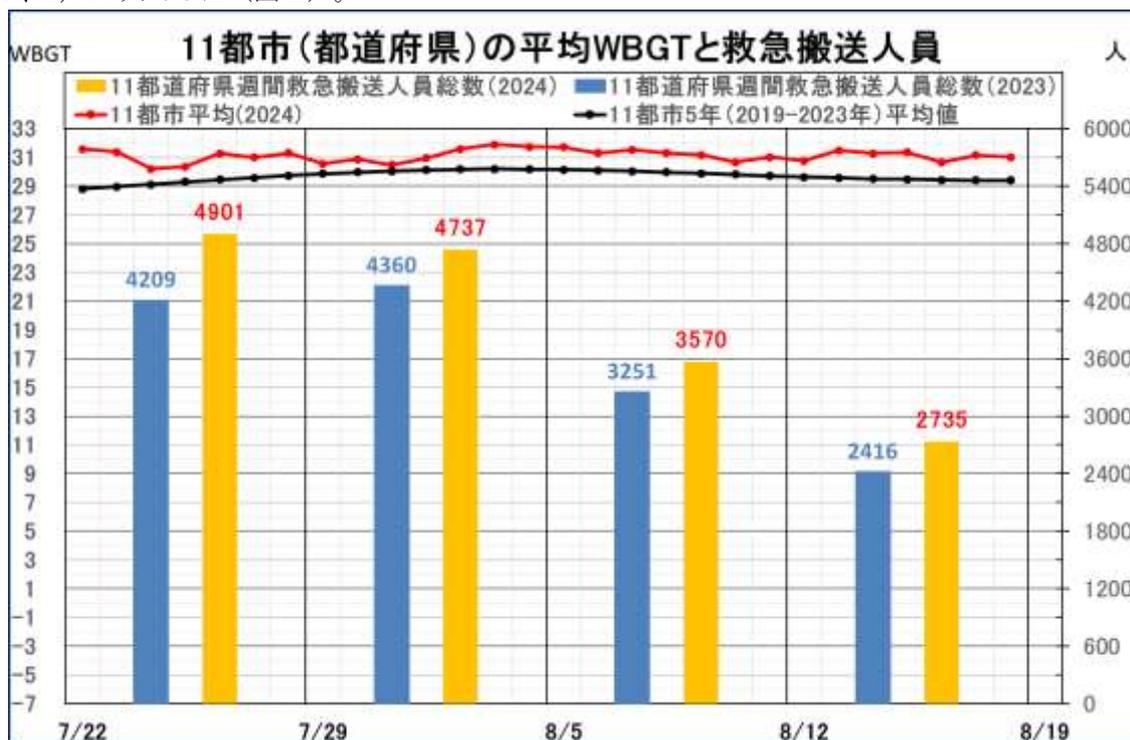


図1 全国11都市の平均日最高暑さ指数(WBGT)状況と救急搬送人員(全国11都道府県)の動向

表1は、今期間における全国11都市の日最高暑さ指数(実況値)を示しています。各都市で「危険」を示す31以上となる日がありました。特に東京では34、名古屋、大阪、高知、福岡、鹿児島では33となる日がありました。

表1 全国11都市の日最高暑さ指数(WBGT)(8月12日～8月18日)

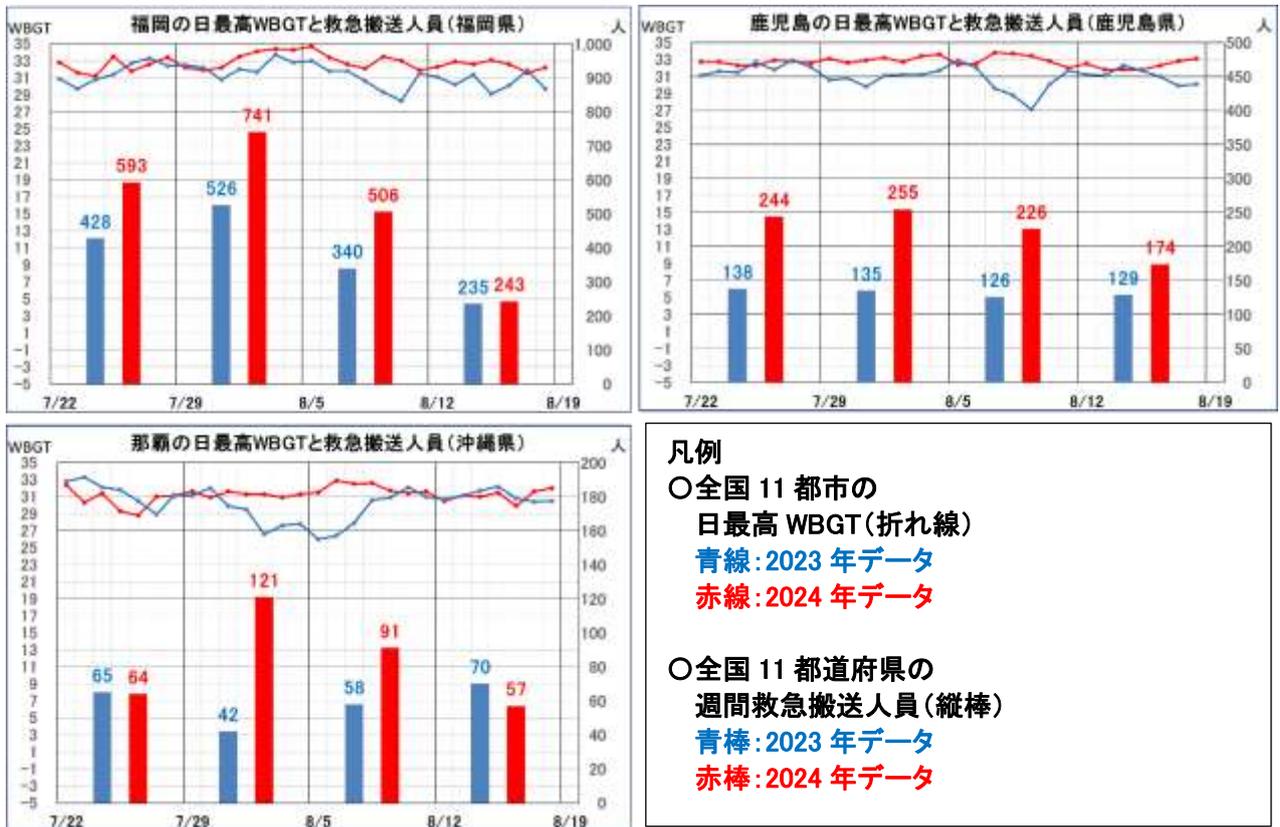
日	札幌	仙台	東京	新潟	名古屋	大阪	広島	高知	福岡	鹿児島	那覇
12	31	27	33	29	32	30	29	32	32	33	31
13	29	32	33	30	33	32	30	32	33	32	31
14	27	31	32	30	33	32	31	32	33	32	31
15	27	32	32	30	33	33	31	32	33	32	32
16	28	30	28	31	32	31	30	33	33	32	30
17	26	31	33	31	33	31	29	33	32	33	32
18	24	30	34	30	31	32	31	32	32	33	32

注1 本資料の暑さ指数(WBGT値)は速報値です。確定値とは異なる場合があります。

注2 本資料における全国11都道府県・全国11都市:

北海道・札幌市、宮城県・仙台市、東京都・文京区、新潟県・新潟市、愛知県・名古屋市、大阪府・大阪市、広島県・広島市、高知県・高知市、福岡県・福岡市、鹿児島県・鹿児島市、沖縄県・那覇市

注3 総務省消防庁の発表資料を元に環境省で作成：<https://www.fdma.go.jp/disaster/heatstroke/post3.html>



3. 全国の熱中症警戒アラート等の発表状況

直近4週間（7月22日～8月18日）の、全国（58の府県予報区等）における熱中症警戒アラートの延べ発表回数は以下のとおりです（表2）。なお、この期間において、熱中症特別警戒アラートの発表はありませんでした。

表2 全国の熱中症警戒アラートの発表状況（7月22日～8月18日）

	7/22～7/28	7/29～8/4	8/5～8/11	8/12～8/18
全国	207	241	213	213
(参考) 昨年	199 (2023/7/24～7/30)	221 (2023/7/31～8/6)	172 (2023/8/7～8/13)	148 (2023/8/14～8/20)

4. 今後の見通し

気象庁の2週間気温予報の概要は以下となっています。（注4）

（8月21日発表、予報期間8月22日～9月4日）

北日本、北陸地方	向こう2週間の気温は、暖かい空気が流れ込みやすいため高く、かなり高い日が多い。
関東甲信地方、東海地方、近畿地方	8月24日頃までは暖かい空気が流れ込みやすいため高く、かなり高い所もある。その後は8月28日頃まで平年並の日が多いが、8月29日頃からは再び暖かい空気が流れ込みやすくなるため、かなり高くなる。
中国地方、四国地方、九州北部地方、九州南部・奄美地方	向こう2週間の気温は、暖かい空気が流れ込みやすいため高く、かなり高い日が多い。
沖縄地方	8月24日頃までは暖かい空気が流れ込みやすいため高く、かなり高い日もある。その後は8月28日頃まで平年並だが、8月29日頃からは再び暖かい空気が流れ込みやすくなるため、かなり高くなる。

（参照：2週間気温予報 <https://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/twoweek/?fuk=1>）

注4 予想された気温を、平年と比較して5段階（かなり高い、高い、平年並、低い、かなり低い）で示します。